

ワシントン大学短期英語プログラム報告書

北海道教育大学札幌校理数教育専攻算数数学教育分野

1年柴山真千翔

- 1) このプログラムで毎日3時間ほどの授業を3週間受けました。日本では考えられないくらいこの3時間はあっという間で、とても集中して参加することが出来ました。授業ははじめ、アメリカの童謡や簡単な英会話から始まりました。毎日英語で日記を書くといった課題があり、そこで疑問に思ったアメリカの生活習慣を書くと、Lora(先生)がその背景にあることを教えてくれました。また、Loraは授業後に地元の人に人気な飲食店や、観光地のお得な情報を紹介してくれました。Loraからの情報を頼りにクラスメイトと放課後お出かけするのが楽しかったです。一番大変だった課題はグループプレゼンテーションです。Family lifeについて、多くのネイティブに質問をし、グループで考えをまとめてプレゼンをしました。伝えたいことを、英語で話すのが難しく、自分の持っている語彙では足りませんでした。現地の方々はとても協力的で、簡単な英語になおしてくれる方や英文にアドバイスをくれました。なんとかやり遂げたときは達成感に満ち溢れ、日本に帰ったら英語の勉強を頑張ろう、とモチベーションが高まりました。



Final ceremony

Lora とツーショット
なんと抽選に当たり、大学のマスコットキャラクター、ハスキーのぬいぐるみをゲットしました。

- 2) シアトルはほとんど毎日雨が降る地域です。一番驚いたのは、現地の人たちが傘をささないことです。フードや帽子で雨をしのぎ、生活していました。初めてホストマザーと出掛けた日も大雨で、一緒にびしょ濡れになってケラケラ笑いあいました。日本人があらゆるときに「やばい」を使うの

とおなじように、私のホストファミリーは「Oh my goodness!!」を使っていました。たった3週間しか生活していないけれど、なんとなく英語が自然と出てきました。帰宅途中に飲んでいたタピオカドリンクを道に落としてしまったときに自分一人しかいなかったのに思わず、「Oh my goodness!」と言ってしまったことは一生忘れられません。ホストマザーは仕事で帰りが遅く家で話す時間はあまりありませんでしたが、毎朝大学まで車で送ってくれたので、そのときにコミュニケーションをとるようにしていました。英語に慣れるためには、話して練習するしかありません。Practice, practice とよく言われ、たいしたことない内容でも話すように意識して生活しました。ホームステイはお家によって決まり事や、干渉の程度が全く異なっているため、クラスメイトとホストファミリーの話でよく盛り上がったことを覚えています

- 3) 学生時代にホームステイに行きたい!という目標を1年生で達成できて両親や大学に感謝しています。いろんな経験をして中身も見た目もおおきくなって帰ってくる事が出来ました。海外プログラムに関して不安な方はポケットWi-Fiを持っていくときっと安心でるでしょう。また、クレジットカードは2枚あるとより安心です。(実際に私は1枚スキミングされて使用を停止されましたが、予備のカードがあったため生活を続けられました。) こんなにいいプログラムは他にないと思います。ぜひ、みなさんも参加してみてくださいはどうか?



ホストファミリーと

マザーはきのこのこの山派、私とほかのファミリーはたけのこの里派でした。キティちゃんが大好きなようで、お土産に持っていったらとても喜ばれました。



ハンバーガーショップにて

Sweet potato fries というさつまいものフライドポテトがおいしくて、いろんな店のハンバーガーショップで注文して食べていました。おすすめです。